

秋から冬の野山

子ども歳時記

節分

村の中、山の麓を歩いているといろいろな色の光る木の実が目立ちます。

野生のバラ、ノイバラ。これ等の実はしぶくて人には食べられません。裾野にはコケモモや、ガンコウラン（浅間ベリー）などがあります。これらは鳥や虫たちも好きらしく、次第に減っていきます。ユリ科の草の実、ルイヨウボタン、ブラックソーン、アマドコロ、クロウメモドキなど紺色や黒っぽい実に色づいてきた葉が調和しています。冬の野山で見つかる枯れた花や種のさやなども、すてきなドライフラワーになります。 尼崎の森へ行ってみましょう！アベノマキ、コナラ等の木があります！森は皆で協力して作っています。



日本には季節にあわせて行われる行事や風習が数多くあります。それぞれに理由や目的があり、人々の願いが込められています。

節分は季節を分けるという意味で、立春、立夏、立秋、立冬の前の日を言います。色々な楽しみがある現在の2月

の節分は旧暦の大晦日にあたります。立春を新しい年の始まりと考えていたので、節分のことを年取り、年越しなどという地方もあります。

豆まきの豆には、魔よけの力があると言われ節分の行事に使います。炒った大豆を升にいれ神様にお供えしてから「鬼は外、福は内！」と唱えてまきます。巻かずしは恵方に向かって無言で食べます。やいかがしは柵や大豆の枝にイワシの頭をあぶって刺したものをかざります。



福茶は、年の数に1を足した豆を茶にして飲む行事です。

住環境コーディネーター
引地 春美



子育て親育ちエッセンス

サークル『やんちゃんこ』
代表 濱田 英世

誰だって褒められたい

保育所、幼稚園や小学校で行われる作品展や音楽会などの行事には、いつもたくさんの方が来られます。子どもたちは日頃の頑張りを観てもらって大喜び。なぜなら、おうちの方にいっぱい褒めもらえる特別の日だからです。

「上手だったよ」「よく頑張ったね」「かっこよかったよ」子どもたちは、こうして褒めてもらうことで、認めてもらった嬉しさを感じます。これが、自尊心を育てていくことにつながっていくのです。「やればできる」気持ちを育てることはとても大切なことです。認めてもらうことで、大人を好きになり、より信頼するようになります。私たち大人でも、自分のことをわかってくれる人、自分の話を聞いてくれる人は好きですよ。そして、その人にもっと自分をわかってほしいと思います。子どもたちも同じです。自分のことをわかってもらえたと感じた子どもの心は安定して、また褒めてもらおう、認めてもらおうと頑張るのです。

よく、子どもは「褒めて育てよ」と言われるのは、こういうことです。このサイクルの繰り返し、子どもの意欲を引き出し、育てていくのです。ただ、気をつけたいことが二つあります。

結果にとらわれないで

一つは、そうして褒める内容は結果ではなく、普段の過程の段階を褒めてあげるといことです。テストで95点が取れた時よりも、65点を取った時の方が大切なのです。

”どうして、こんな点数なの。この間は95点だったのに!” こう言われたら……どう思いますか？ 良い点でなかったことは子どもが一番よく分かっているはず。それに追い打ちをかけるように言われたら…悲しいですね。自分は駄目な子なのだと思い込むようになってきます。そうでは

なく、”あんなに練習していたのに、ここを間違えたのね。惜しかったね。次はできるようにしようね。” どうか、ぜひ普段の子どもたちの頑張りを認めて褒めてあげてください。

子どもとの毎日は素晴らしい

そして、もう一つは、その眼を特別な日だけでなく毎日の日々の中に向けてほしいということ。普段、『当たり前』でそのままになっていませんか。悪いことはすぐ眼につくので叱りやすいのですが、良いことはなかなか見つけにくい。当たり前という感覚が先にくるからです。しかし、どうでしょう。生まれてきた時は元気でさえいてくれれば…そう願ったはず。そう思えば、毎日元気で「おはよう」と言うことだけでも、どんなに素敵なことなのでしょう。ですから、最初の「上手にできたね」「よく頑張ったね」などの言葉を、もっともっと毎日の中で言ってあげてほしいのです。結果を急いで求めると、親も子もしんどくなってしまいます。そうではなく、ゆっくり焦らず、そして子どもが自分のことをしっかり認め愛されると感じる時間の中で、子育てをしていきたいものです。”



せいては事を仕損じる”ということわざがあるように、この子が大人になるまでには、まだまだ…時間はたくさんあります。どうか、ゆっくり楽しく一緒に…